

各部会での令和2年度検討報告並びに令和3年度の検討テーマ一覧

資料 2

部会	R2年度 検討内容			R3年度 検討内容		
	R2年度検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
病院部会	緊急時の受け入れについて					
医師会部会	在宅医療の充実に向けて			在宅医療の充実に向けて	引き続き、このテーマに取り組む必要があると考えるため	
歯科医師会部会	多職種連携を円滑に行うためにはどうするか	講習会の内容 中断により、次年度に持ち越し。	会議 2回 参加人数 延べ 26人 4. 5月のみ COVID19により、中断。	多職種連携	令和2年度、中断してしまった事項を再度検討しなおす為。	
薬剤師部会	在宅における麻薬の取り扱い			医療用麻薬の取り扱い	在宅患者訪問における麻薬管理 法令・省令に基づく麻薬小売業者間譲渡 他	
訪問看護ネットワーク部会	医療廃棄物の破棄方法の検討		清掃事業所、高齢福祉課、 医師会、施設部会、ヘルパーネット部会、在宅医療サポートセンター	災害医療における多職種連携	・コロナも災害と捉えて、、訪問看護ステーション間の事業所連携だけでなく、病院、施設、ケアマネジャーとの連携をシステム化して市民の安全で穏やかな暮らしを守りたい。 ・サルビー見守りネットを活用した情報共有のあり方を検討したい。 ・医療依存度が高い利用者の水害地震発生時における、非常電源が確保できる避難場所のマッピングをしたい・ ・事業所と利用者それぞれが災害発生時の行動マニュアルを作成して、迅速に避難できる環境整備をしたい。 ・コロナ禍において、施設入所や入院すると家族と面会できないため介護と医療が連携して、市民が在宅医療を活用して、自宅で介護支援を受けながら治療を継続して、自分らしく最期まで過ごせる環境を整えたい。	すべての部会
リハビリネット部会	介護予防に必要なフレイル対策		全ての部会	人生の最終段階におけるリハビリテーションのこれから	人生の最終段階におけるリハビリテーションの有用性は認められているものの、ターミナル期においては看護・介護の優先順位が高まり、リハ専門職の関わりが少ないのが現状である。 人生の最終段階をどう生きるかをリハ専門職としていかに支援するか、リハビリネット部会として年間を通して検討していきたい。 他職種間での連携も重要であるが、リハ職間での連携(急性期～在宅)についても改めて検討が必要であると考え る。また、コロナウイルス感染拡大に伴いオンラインの活用が加速していることを受けて、人生の最終段階におけるオンラインの活用方法も検討していけると良いと考える。	

部会	R2年度 検討内容			R3年度 検討内容		
	R2年度検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
ケアマネット部会	コロナ禍における多職種連携の在り方	① 新型コロナウイルス感染の影響で定例会の開催ができない中、情報交換のツールとしてサルビー見守りネットを活用していきたいと考えた。できるだけ多くの事業所に参加と登録を呼びかけ、プロジェクトを立ち上げた。(5月) ② 今年度初開催の定例会において、事業所での対応や困っていること、またコロナ加算についてデイネット会長を交えて意見交換を行った。(7月) ③ サービス担当者会議のオンライン開催について、リハビリネットより提言いただき、部会内の意識調査としてアンケートを実施した(12月)。アンケートを集計し結果をもとに、オンライン開催についての課題を抽出し、研修開催(2月)へ向けての目標設定を行った。 サルビー見守りネットプロジェクトへの参加者は72名にとどまっており、まだまだ十分には浸透していない。 オンラインの活用については、必要性は感じているものの苦手意識があり、積極的な導入には二の足を踏んでいる事業所が多い。 サービスの変更時など利用者の状況変化を見逃すことなく的確に情報収集を行う必要がある。多職種間での情報共有を図っていくためには担当者会議は必須であるが、集まることでの密を避けなければならない。オンライン担当者会議の実用化を目指すためには、他部会の協力を得ながら段階的に研修を実施していくことが望ましい。 今年度の定例会は7月、10月、11月、2月、3月(予定)の計5回、参加人数も事業所1名と縮小しての開催となった。 予定していた研修も軒並み中止となり、介護支援専門員としての業務の取り扱いも通常とは大きく変わった一年だった。	会議 1回 参加人数 延べ 33人 その他(オンライン担当者 会議アンケート 113名)	看取り期における多職種連携	・コロナ禍においては、病院や施設等の面会制限などで退院前カンファレンスやサービス担当者会議等の開催が難しい場合もある。 ・在宅での看取り体制を整え、切れ目のない在宅看取りの支援を行う上で、多職種連携は欠かせない。 ・ACPなど意思決定支援における多職種間の情報共有の取り組みを考えていく必要がある。	すべての部会
小規模多機能部会	・運営推進会議のあり方 ・小規模多機能ホームの役割と連携		ケースによっては訪問看護部会			
デイネット部会	重度・終末期のご利用者に対してデイサービス・デイケアで何が出来るか？			「本人が望む場所で、自分らしく最期まで今を生きる」ため通所系サービス事業所が出来ること	安城市として推進していく「看取り体制:本人が望む場所で、自分らしく最期まで今を生きる」場所がご自宅であった場合、在宅サービスの私ども「通所系サービス」のご利用も視野に入ると思われるが、「看取り体制」に対しての考え方の相違や、不安などがあると思われる。 部会を通じて、「自分らしく最期まで今を生きる」ことができるように理念を理解し、体制を整備できるようにグループワークなどを通じて、情報共有をしていきたい。	訪問看護部会、ケアマネット部会
ヘルパーネット部会	訪問介護から見える利用者様の状況を分かりやすく連携するための報告力と観察力を学ぶ		すべての部会	未定		

部会	R2年度 検討内容			R3年度 検討内容		
	R2年度検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
施設部会	① 施設間での情報共有・連携強化 ② 介護職員の人材育成や人材確保	<p>○ 今年度は、新型コロナウイルスにより、各施設が感染対策に苦労しながらも、サービスの継続が行えるよう取り組んできた。部会においては、新型コロナウイルスにおける感染対策の現状報告と今後の方針等の情報共有を行った。</p> <p>○『福祉施設現場でのハラスメント』について、講師の早川先生を招いて研修会を開催した。今後、現場で活用できるようにハラスメントについて理解を深めた。</p> <p>各施設での新型コロナウイルスにおける感染対策の現状報告あるいは今後の方針等を話し合うことで、対応についてある程度の足並みを揃えることが出来た。 今後も、引き続き感染対策を継続して施設間での連携強化を図っていききたい。</p>	会議 延べ 6回 参加人数 90人	①施設間での情報共有・連携強化 ②感染対策の現状と今後	<p>○施設間での情報共有や連携を図ることで、お互いの施設が相談する機会を持つ事ができ、市内全体の施設運営の底上げに繋がっていく。</p> <p>○感染対策について施設間での情報共有を図り、安定した施設運営や施設サービスが行えるよう各施設が協働し相乗していけるよう連携していききたい。</p>	
グループホーム部会	1.地域の認知症の方をサポートする支援の取り組みについて 2. 各グループホームで困っていることについて	<p>1. 来年度の福祉まつりに今まで通りグループホームの紹介と相談コーナーに加えて、どこかの教室を時間限定で借りて認知症のミニ講座を開催する。</p> <p>2. コロナ禍でご家族との面会についてや消毒等の備品の確保について、職員がコロナ陽性者になった時の対応について等意見交換をしました。</p> <p>結果・方向性 1. グループホームとして、地域の認知症の方や家族に多くの情報を発信しできるようにする。 2. 部会を通して、グループホーム同士の繋がりができお互いの悩みを共有し解決ができる。</p>	会議3回 延べ30人	本人、家族それぞれの思いを把握しお互いの思いが尊重されるような看取りとなるために、業務や事例を通して考える。	看取りを考えていく中で、本人、家族の気持ちをどのようなタイミングや方法で聴き取り対応しているかを部会内で共有し、より良い方法を検討することで、看取りに関する本人、家族の意向の共有を適切に支援できるようにしたい。	
保健福祉部会	自立支援について(介護予防を含む)			○自立支援について。 ・R2年度自立支援サポート会議からの課題整理と課題解決のための実践。	<p>○サポート会議からの課題整理の取組</p> <p>・当事者の自立支援にあたり、多職種が取り組むべき課題を整理し、各自の取組に繋げる。</p> <p>・「自立支援とは」を改めて共有し、各専門職の関わり方などについて繰り返し認識できるようにする。</p> <p>・より効果的な会議とするために、部会において自立支援サポート会議の振り返りを行う。</p>	リハネット部会との協力